

QOL

No.28

QOL サポーター 新潟

Quality Of Life



3月14日(水)、朱鷺メッセにおいて、第8回卒業式・大学院修了式が行われ、袴やスーツに身を包んだ学部生606名、大学院生20名の計626名が新たな社会へと巣立ちました。

INDEX

- 学長・副学長の挨拶
- 東日本大震災から1年 本学の活動とこれからの役割
- 学習支援センター
- 健康スポーツ学科 定員増のお知らせ
- 海外研修特集 国際感覚を学ぶ
- 新入生へのメッセージ
- 学友会紹介
- CAMPUS NEWS
- 受験生の皆さんへ



新潟医療福祉大学

2012年4月5日発行
新潟医療福祉大学広報委員会編集



新潟医療福祉大学 学長 山本正治

■専門 公衆衛生学、予防医学 ■学位 博士(医学)、M.P.H. (テキサス大学) ■所属等 ポストン大学医学部リサーチフェロー、新潟大学医学部教授、新潟大学大学院医歯学総合研究科教授、新潟大学医学部長、新潟大学大学院医歯学総合研究科長、新潟大学医歯学系長、新潟大学名誉教授、新潟県環境審議会会長、新潟県医療審議会会長、日本がん疫学研究会総会会長、日露医学医療交流財団国際シンポジウム機構長、日本衛生学会総会会長等を歴任

入学おめでとうございます。皆さんは今、将来の夢に胸を膨らませ、これからの学生生活を送ろうとしているかと思います。あるいは、入学時点ではまだ明確な夢は描いてないが、人との出会いやさまざまな学問に触れることに何となくワクワクしている人もいますかと思えます。

皆さんは今まで「人生における目標や夢」について考えてきたことはありますか？私が人生における目標や夢について真剣に考えたのは、大学医学部3年生の時でした。それは、今から50年近く前の昭和39年6月16日、新潟地震の時でした。地震で石油タンクが炎上したり、アパートが倒壊したり、橋げたが落ちるなど、大きな被害が発生しました。大学は2カ月近く休校になりました。そこで私たちは先輩医師が組織するボランティア活動に参加することになりましたが、医学部ではまだ解剖学しか習っていませんでしたので、血圧測定さえもまともにできない状態でした。先輩の先生方の診療活動を手伝うことすらできず、何もできない自分自身を情けなく、また悔しく思いました。この時、地域社会が医学生の私たちに期待しているものは、医学だけでなく保健・医療・福祉分野の知識・技術も求められていると肌で感じました。この時の教訓から、「人生における目標や夢」について真剣に考えさせられ、医学だけでなく、もっと保健・医療・福祉の専門知識や技術も学びたいと強く思い、ひたすら邁進してきました。「人生における目標や夢」がなければ、私は今、教育者として、また本学の学長として、この場にいなかったかもしれません。

私は、皆さんが大学生活をスタートするにあたり、願いがあります。これは私の経験から申し上げますが、「人生における目標や夢」を大学生のうちに確立してほしいということです。これから将来、昨年発生した東日本大震災のような予期せぬ大きな災害がまた起こるかもしれません。また国際化が進み、多くの情報が飛び交い、猛烈なスピードで社会は変化しています。今までの常識が役に立たなくなる日が来るかも知れません。これからの時代を生き抜くためには、常識に捉われない思考を心がけ、自己の確立(自分らしい生き方を決めること)をしなければなりません。自己を確立するためには、何ものにも左右されない将来の目標や夢をしっかり持つことです。

本学は保健・医療・福祉・スポーツ分野の専門職を養成する大学として、今から11年前に開学しました。建学の精神として「優れた

「人生における目標や夢」の実現に向けて

QOLサポーターの育成」を掲げています。QOL(Quality of Life)とは、生き方の質や満たされた人生、生き様を大切にしようという考え方です。本学で学ばれる皆さんには、人生におけるQOLの大切さを学んでいただき、患者さんをはじめとする対象者のQOLを支えるための高度な知識と技術を身につけたプロフェッショナルになっていただきたいと願っています。そのプロフェッショナルとして地域社会に貢献できる専門職の心がけを、本学は「STEPS」と決めました。

- ・S= Scientific Reasoning Based on Evidence.
専門知識と技術を身につけること。
- ・T= Teamwork and Leadership.
チームワークを大事にし、さらにチームをまとめること。
- ・E= Empowerment and Communication Skill for QOL.
対象者がやる気を起こすようにコミュニケーション力を用いて支援することですが、まずは、挨拶から始めること。
- ・P= Problem-Solving. 自ら課題を見つけ、解決すること。
- ・S= Self-Realization in Society.
自分の可能性の実現に向けて努力すること。

学生時代にSTEPSの基礎を一通り学ぶ必要がありますが、私はこの中で、最初の段階のS(専門知識と技術を身につけること)を優先すべきと考えます。地域社会が専門職業人(プロフェッショナル)にまず求めることは、専門的知識と技術であるからです。学生時代に5つのステップを一段一段上がることで「目標や夢の実現」を具体化していただきたいと思います。また社会に出てからも、この5つのステップを意識しながら歩んでいただきたいと思います。身近な問題が解決できた時(段階P)、人生をきっと意気を感じると思います(最後の段階S)。プロフェッショナル人生はこのSTEPSの繰り返しです。

「人生における目標や夢」の実現に向けて何をすべきか？答えは簡単です。大学生活の中で、毎日の授業や実習に積極的に参加することを優先し、その中でさまざまなことに挑戦してみることです。「よく学び、よく遊べ」の順です。挑戦すると失敗もします。しかし失敗を恐れて挑戦しないと、人間は成長しません。失敗を恐れない気持ちを大切にしてください。一歩後退しても二歩前進する心意気が大事です。将来の目標と夢に向かって充実した大学生活を送ってください。本学は「めんどうみのよい大学」として、惜しみない支援を約束します。



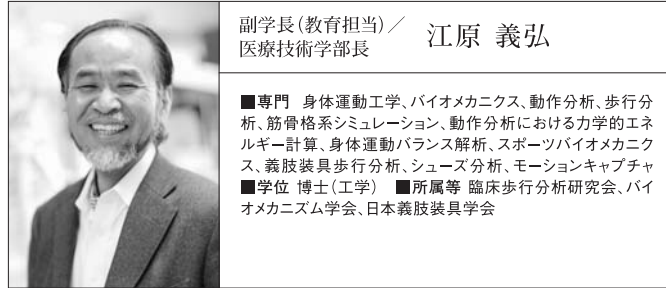
副学長(国際交流・強化スポーツ担当) 渡辺 敏彦

■専門 国際交流、職業教育 ■所属等 学校法人新潟総合学園副理事長、学校法人大彦学園理事長、新潟県専修学校各種学校協会会長、新潟県私立学校審議会委員、新潟県私学振興会副理事長、全国専修学校各種学校総連合会理事、専修学校教育振興会理事、新潟いのちの電話後援会副会長、新潟商工会議所参与、新潟陸上競技協会会長、いがた青年海外協力隊を育てる会副会長、新潟日米協会副会長、新潟・フランス協会役員、新潟日独協会理事、国際ロータリー第2560地区2007-08年度ガバナー等

国際交流の重要性

本学の設立の基本理念は、1.「優れたQOLサポーターの育成」2.「地域社会のニーズに応えること」3.「国際交流と国際貢献」の3つです。1と2・3は全く別項目のようですが、実は大変深く関わっています。即ち、優れたQOLサポーターは、まさに「地域社会」の中で、保健・医療・福祉・スポーツ分野で活躍する訳ですので、地域社会とそのニーズを知る必要があります。3の「国際交流と国際貢献」ですが、QOLサポーターの活躍する専門分野は日本だけで独立している訳ではなく、「世界の中の日本」であると思います。即ち、QOLサポーターとしては、広い視野と最新の情報を得る必要がある訳で、国際交流は、そのための有効な手段であると思います。

さらに、QOLサポーターの「ハード」の部分は最新の情報・知識と優れた技術だと思えますが、その「ソフト」の部分は、人間性とコミュニケーション力になると思います。「ハード」は「ソフト」がないと機能しない訳ですので、人間性やコミュニケーション力を養い、それを磨くのは「国際交流」がうってつけだと思います。その機会を提供していきますので、積極的にトライしてください。



副学長(教育担当) / 医療技術学部長 江原 義弘

■専門 身体運動工学、バイオメカニクス、動作分析、歩行分析、筋骨格系シミュレーション、動作分析における力学的エネルギー計算、身体運動バランス解析、スポーツバイオメカニクス、義肢装具歩行分析、シューズ分析、モーションキャプチャ ■学位 博士(工学) ■所属等 臨床歩行分析研究会、バイオメカニクス学会、日本義肢装具学会

優れたQOLサポーターを社会に送り出しています

本学の使命は、保健・医療・福祉・スポーツ分野で他の職種と連携し、自分の果たすべき任務をしっかり遂行できる優れたQOLサポーターを育て、社会に送り出すことです。

最近嬉しいことは、卒業生がよく大学に顔を出してくれて、後輩の面倒をみてくれることです。これは、本学がめんどろみのよい大学を標榜・実行しており、その成果だと考えています。具体的に、本学は「学生の授業満足度で日本一」と言われるような大学を目指しています。学生にとって、最も重要なことは毎日の授業が良く理解できることでしょう。昨年度は学習支援センターが開設され、1年生から4年生まで多くの学生が利用を始めています。授業の満足度が向上すれば学生は自主的に学習するため、好循環が生まれます。さらに国家試験の合格率や就職率も上昇するでしょう。国家試験の合格率では既に全国一あるいは、全国トップクラスを実現しています。これらがさらに堅実なものになるでしょう。授業の満足度向上には各教員の努力・工夫がもちろん必要です。加えて各科目の持つ意味や位置づけを、各職種に必要とされる能力養成の中で再確認が必要だと思っています。授業の中で学生のパワーを活用するような視点も必要でしょう。

大学をもっともっと楽しいものにするために、学部・学科を越えた学生同士の連携をサポートする県人会など、助け合いができる環境を構築しています。さらに、大学院の院生が学部の学生をマンツーマンで指導する体制も構築したいと考えています。



副学長(地域連携担当) / 社会福祉学部長 丸田 秋男

■専門 地域福祉政策、生活支援論、学校ソーシャルワーク ■学位 修士(地域政策学) ■所属等 新潟県長岡地域福祉センター次長、福祉保健部障害福祉課参事を歴任。日本地域政策学会、日本子ども家庭福祉学会、日本ケアマネジメント学会、日本社会福祉学会、新潟県生涯学習審議会、新潟県自立支援協議会長、新潟県水俣病施設推進審議会委員、新潟県第三者評価事業推進委員会委員、新潟市社会福祉審議会委員、新潟市環境審議会委員等

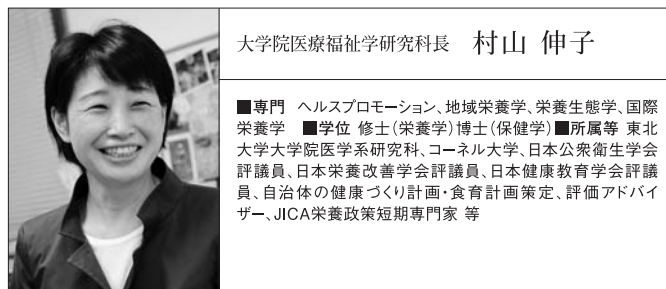
自分の可能性にチャレンジを!

本学は、皆さん一人ひとりが、自らの可能性にチャレンジし、その可能性を限りなく追求することのできる大学です。

本学の学生は、保健・医療・福祉・スポーツ分野における専門知識・技術を学ぶだけでなく、環境やまちづくり、ひとづくりなど幅広い分野でのボランティア活動や地域貢献活動を通して、豊かな感受性と想像力を身につけるよう努めています。

昨年3月11日に発生した東日本大震災では、新潟市北区に設置された避難所において5カ月間にわたって被災者の生活支援にあたりました。被災者の方々との交流は、学生のエンバウメントを高め、福島県南相馬市の仮設住宅における定期的なサロン活動にまで発展しています。また、半世紀にわたる社会問題である新潟水俣病問題にも積極的に取り組み、阿賀野川流域に所在する医療福祉系の総合大学の社会的役割が、患者の方々と関係者から高い評価を受けています。

本学の大きな特色は、このように学生と地域社会を結び付ける多様な「社会的な懸け橋」(ソーシャル・レインボーブリッジ)の仕組みを有していることです。新入生の皆さん、本学での質の高い学びを通して、「他者の喜びを自己の喜びにする」ことのできる豊かな人間性を育み、自分の可能性を最大限に発揮しましょう。



大学院医療福祉学研究科長 村山 伸子

■専門 ヘルスプロモーション、地域栄養学、栄養生態学、国際栄養学 ■学位 修士(栄養学)博士(保健学) ■所属等 東北大学大学院医学系研究科、コーネル大学、日本公衆衛生学会評議員、日本栄養改善学会評議員、日本健康教育学会評議員、自治体の健康づくり計画・食育計画策定、評価アドバイザー、JICA栄養政策短期専門家等

世界に開かれた大学院に

新潟医療福祉大学大学院は平成17年度にスタートし、修士課程、博士後期課程を通じて、多くの個人や集団のQOL向上に寄与する高度な「保健・医療・福祉・スポーツ分野のプロフェッショナル」を社会に送り出してきました。新潟県内の指導的な立場である人材は、本大学院出身者が多くなってきており、その実績にともない、新潟県内のみならず新潟県外からの本学大学院進学者も増加しています。

さらに、平成24年度からは、3つのプログラムがスタートします。1つは、従来からの「教育・研究者養成プログラム」、2つは保健・医療・福祉・スポーツ分野の実践的なスキルアップをねらった「高度専門職業人養成プログラム」、3つは、国際協力機構(JICA)と連携し、日本で初めて設置した「青年海外協力隊等プログラム」です。「青年海外協力隊等プログラム」は、青年海外協力隊等のJICAボランティアに参加しながら本学大学院に入学できる仕組みです。日本のJICAから、世界のJICA事務所に発信され、多くの問い合わせをいただき、平成24年度より世界各地で活躍する青年海外協力隊等が入学してきます。また、国際協力を力を入れている他大学からも高い関心をもたれており、今年度はさらに世界に広がることになりそうです。

また、本学での研究を希望する留学生も増えており、研究そのものはもちろん、海外の大学などの高等教育機関の設立にも役立つ大学院になりたいと思います。

こうした取り組みを通じて、保健・医療・福祉・スポーツ分野の総合的な大学院として、全国で、アジアで、トップクラスに位置づけられるよう努力していきます。保護者の皆様、地域の皆様より引き続き、ご支援を賜りますようお願いいたします。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災から1年が経ちました。想像をはるかに超える津波被害、そして東京電力福島第一原子力発電所の放射能漏れ事故による被害、さらに東北全体の風評被害と未曾有の大災害に翻弄され、人間の無力さを思い知らされた一年でした。その一方で日本人の忍耐強さ、連帯意識と規範性の高さが諸外国から評価、絶賛されたことは記憶に新しく、この国民性をもってすれば、必ずや復興を果たせると確信しています。

本学は、保健・医療・福祉・スポーツ分野の総合大学として、それぞれの専門性を活かしながら、災害看護、災害介護の分野などで被災者支援、被災地支援にあたってまいりました。学生もボランティアとして岩手県の陸前高田市をはじめとした被災地へ、がれき撤去などの活動に率先して参加し、支援にあたってきました。

これらさまざまな活動の中から今回は、本学学生と教員、福祉関係者らによる福島県南相馬市鹿島区応急仮設住宅への訪問交流活動を紹介いたします。

社会福祉学部 社会福祉学科 / 講師 青木 茂

訪問交流のきっかけ

3月11日の震災発生後、地震、津波、放射能漏れ事故から逃れるため、福島県南相馬市の皆さんが新潟市北区豊栄体育館避難所に大勢避難されました。

不自由な生活を余儀なくされる中、避難所のトイレ・洗面所などの清掃活動、被災者への食事の支度、子どもたちの遊びの支援など本学学生と教員による、約5ヵ月間にわたる継続的な避難所支援が行われました。その中で、被災者と信頼関係を深め、被災者の心に寄り添い、一緒に涙を流し、辛さを共感することができ、このような貴重な体験をさせていただいたことに感謝し、南相馬市の皆さんに対して恩返しを申し出たところ「南相馬市民がどこで、どのような想いを持ちながら、どのような暮らしをしているか知ってほしい。そして自分の眼で観たこと、耳で聴いたこと、心で感じたことを大切に、将来医療福祉の現場で働いてほしい」との言葉をいただき、南相馬市での再会を約束しました。

その約束を果たすべく、昨年9月に南相馬市社会福祉協議会のボランティアコーディネートののもと、第一陣として28名、12月に15名、今年1月に23名、2月に35名、3月に35名と延べ136名の学生と教員、さらに避難所の開設と運営にあたってきた北区役所健康福祉課長、北区社会福祉協議会事務局長に呼びかけ、本学関係者のみならず福祉関係機関とともに訪問し、行動連携を果たすことができました。また、この訪問交流にかかる費用の一部については、新潟県医師会からの助成金を活用させていただき、学外における医療、福祉行政、大学の三者連携をも実現することができました。

訪問交流の様子



仮設住宅1軒1軒を訪問してチラシをお届けしました。



交流会の開始。司会・進行は学生が行いました。



クリスマスケーキづくり。学生と一緒に子どもたちも真剣。



サンタクロース登場で盛りあがったビンゴ大会。景品は日用品を用意、大変喜ばれました。



仮設住宅の自治会長さんと記念撮影。



「ありがたき イブのケーキに 喜びて」交流会に参加された住民の方から俳句をいただきました。

写真は、昨年12月の訪問交流の様子です。交流会前日に学生は、仮設住宅一軒一軒に案内チラシをお届けし、その会話の中から仮設住宅における不自由な生活実態を理解し、コミュニティづくりの必要性を学びました。交流会当日は、メインイベントとしてクリスマス会を企画し、ケーキづくりとビンゴ大会で交流を深めました。参加者からは「仮設住宅でクリスマスケーキが食べれるとは思ってもみなかった。」「新潟の皆さんには避難所でもお世話になったのに、こうして若い皆さんが訪ねてきてくれた。感激です。」などと温かい言葉をたくさんいただきました。

本学が行った交流会をきっかけとして住民同士のつながりが生まれ、孤立死予防となり、新たなコミュニティ形成の一助となれたことが、この活動の最大の成果であるといえます。

本学の果たすべき役割

今後、本学の果たすべき役割とは、大学としての専門性を活かした支援は当然のことながら、単発的な支援ではなく息の長い支援を学生と教員と共に可能な範囲で行うことが必要です。そのためには、地元関係者との連携による的確な情報収集とニーズ把握によって、自己満足的、押し付け・押し付けのな支援とならぬよう十分な配慮が必要となります。

「(被災者の)心に寄り添う」「(被災者に)心をくたく」という医療・福祉専門職として一番大切な資質を被災地から学び、身につけてほしいと願っています。

平成23年9月
OPEN!

勉強に関する「？」にお答えします。いつでもお気軽にお越しください。

学習支援センター



概要・目的

本学では、保健・医療・福祉・スポーツ分野のプロフェッショナルとなる人材を目指す中で、多くの専門科目で理数系の基礎的な知識が必要となります。しかし、学生の中には、「高校時代、理科総合を除き、生物・物理・化学・地学のうち1科目しか履修していない。」「数学・理科を大学入試科目に選択しておらず、理数系科目の勉強から離れている。」といった不安を抱えているケースがあります。そういった学生には、基礎を見直し、大学での講義を理解できるようにすることが重要です。学習支援センターでは、主に基礎学力の習得が充分でない分野に対して、可能な限り個別対応で徹底的な理解をモットーに学習指導を行っています。

センターの体制

現在、学習支援センターではセンター長、副センター長の下、4名の学外講師と1名の本学講師が指導にあっており、学生と講師をマッチングさせるコーディネーターが1名常駐しています。また、具体的な勉強の質問だけではなく「授業のノートが上手くとれない」「勉強したいのに集中力が続かない」など学習全般の相談にも対応できる体制を整えています。

学習支援の内容

専門科目の基礎となる高校の数学・生物・物理・化学について、以下のような学生の希望に応え、支援しています。

- 高校で履修している内容で分からないところがあり、講義についていけないので教えてもらいたい。
- 講義の理解度を上げるために、高校の復習がしたい。

この他にも、一般企業や公務員、教員を目指す学生に対して、中学～高校範囲で、試験に出題される問題の質問も受け付けています。さらに、各学科で多くの学生がつまずきやすい専門科目の基礎分野については、補習セミナーを実施しています。

平成23年度実施 補習セミナー

- 指数・対数セミナー(言語聴覚学科) / 音響学に出てくる単位「dB(デシベル)」を理解するために必要な指数・対数を復習。
- 力学セミナー(理学療法学科、作業療法学科、義肢装具自立支援学科) / 運動学・バイオメカニクスを理解するために、物体の動きの基礎となる力学を復習。
※2012年度は、他の学科についても随時実施する予定です。

利用者の声

学習支援センターは、1年生から4年生まで幅広く利用されています。以下は、平成23年10月～平成24年1月の期間にセンターを利用した学生の感想です。(受講アンケートから一部抜粋)

- マンツーマンで分かるまで教えてくれたのが良かった。
- 少人数制で、聞きたいところをすぐに聞けるのが良かった。
- 分かりやすい指導を受けることができた。
- 理解に時間がかかる私に根気よく指導してくれた。
- 中・高で理解できなかったことを理解できた。
- 基礎から、内科学や病態生理学について生理的な作用機序を理解しながら学べた。
- 公務員の勉強に繋がられた。



普通の授業とは違い、自分の分からない箇所を中心に勉強できます。また、講師との距離が近いので、質問があればその都度聞きながら進められます。



ひとりでもグループでも、学生の状況に合わせて丁寧に指導しています。

今後の展望

学習支援のさらなるステップとして、学生からの質問や相談に講師のみならず、学生自らも参加・支援していく「ピアサポート制度」の導入を検討しています。教員と学生がタグを組み、より良い学習環境づくりに努めていきます。

■学習支援センター利用案内

- 場所…講義棟1F D103
- 受付時間…月曜日～金曜日
午前9時30分～午後5時30分

※土日祝日・年末年始、大学の指定休日は除きます。

- 対象…本学 在学生
- 指導・相談実施時間…月曜日～金曜日

※学習指導・相談時間は、おひとり(1グループ)につき1時間程度となります。

※学習指導・相談は、前・後期講義実施期間(定期試験期間は、除く)に限ります。

健康スポーツ学科 定員増のお知らせ

平成25年4月 定員増予定!
募集定員100名

160名

収容定員増加の許可申請中
※収容定員増加は予定であり、
変更となる場合があります。

健康科学部 健康スポーツ学科では、平成25年4月に収容定員を現在の100名から160名への増加を予定しています。また、定員増に伴い、男女サッカー部(女子サッカー部は、平成24年4月発足)、男女バスケットボール部、水泳部、陸上競技部に加え、「硬式野球部」、「女子バレーボール部」、「ダンス部」が、新たに強化指定クラブとして仲間入ります。



なぜ今、定員増なのか?

“スポーツは、世界共通の人類の文化である”。

2011年6月(施行は8月24日)に制定された「スポーツ基本法」の前文はこの言葉から始まります。スポーツ基本法とは、スポーツ立国の実現を目指し、国家戦略として、国民の心身の健全な発達、明るく豊かな国民生活の形成、活力ある社会の実現、国際社会の調和ある発展に寄与することを目的とし、スポーツに関する施策を総合的・計画的に推進していくとするものです。

スポーツ基本法では、スポーツの推進に向けた基本的な条件として、“スポーツ指導者の育成”“スポーツ施設の充実”“学校体育の充実”“スポーツに関する研究の推進”などが掲げられ、スポーツの専門家の育成が強く求められています。さらに、“スポーツ”は勝敗や記録を競うスポーツに留まらず、多様なフィールドで重要な役割を担うキーワードとして注目され始めています。地域密着型のプロスポーツの成功やスポーツ産業の発展、そして、スポーツ基本法の制定によって、スポーツを取り巻く環境が大きく変化し、スポーツの価値や意義、スポーツの果たす役割の重要性が改めて問われる形となり、その可能性はますます広がっています。

本学のスポーツに対する取り組み

こうした中、健康スポーツ学科では、全国でも数少ない保健・医療・福祉・スポーツの総合大学として、従来の“運動”だけに捉われず、“健康づくり”を含めた“教養体育”を重視してきました。この教育は、国の戦略を先取りした取り組みであり、活力のある、文化度の高い、社会性を身につけた学生を社会に輩出することにつながっています。また健康スポーツ学科では、スポーツ基本法に謳われている“総合型地域スポーツクラブ”を研究・社会貢献の側面から支援しており、卒業生の多くもクラブで活躍しています。

今後のスポーツ振興は、企業スポーツ・株式会社化したプロスポーツでは限界であり、学校体育と地域のNPOとしての総合型地域スポーツクラブが連携して、国民の生涯スポーツや健康、一貫指導によるトップレベルの競技スポーツを支えていくことが重要です。その際、スポーツを崇高なレベルで指導できる“スポーツ教育者”の養成が急務だともいわれています。今後、より多くのスポーツの専門家が必要とされる日本社会において、本学科の教育環境と、ノウハウを活用し、多くの優秀な人材を輩出することは、地域社会の“健康づくり”や“スポーツ振興”に貢献できるものと確信しています。

目標とする資格

- 中学校・高等学校教諭一種免許(保健体育)
- 健康運動指導士受験資格
- アスレティックトレーナー受験資格
- 健康運動実践指導者受験資格
- JATI認定トレーニング指導者受験資格
- アシスタントマネージャー受験資格
- レクリエーション・コーディネーター受験資格
- 日本体育協会公認 指導員・コーチ・教師資格
- 日本サッカー協会公認 C級コーチ
- 日本体育協会公認 水泳コーチ受験資格
- はり師・きゅう師受験資格
- ※提携校とのダブルスクールにより、受験資格が取得できます。

① 教育の特徴

幅広い選択科目を配置

多くの大学がコース制によるカリキュラムを採用する中、本学科では“スポーツ医科学”“スポーツマネジメント”“スポーツ指導・教育”に関連する科目を選択科目として配置。将来像にあわせ、【教員免許+コーチ資格】、【トレーナー+健康運動指導士】など、複数の資格取得を目指すことができます。

プロスポーツ団体との連携・協力

全国でも数少ないプロスポーツ団体との連携・協力関係により、アスリートの体力測定や選手のコンディション管理、クラブチームの運営など、さまざまな現場経験を積む機会を提供しています。より現場に即した実践的なスキルを身につけることができます。

他学科とのコラボレーションによる学びを実現

全10学科の学生がともに学ぶ“連携教育”により、【スポーツ×リハビリ】、【スポーツ×栄養】、【スポーツ×介護】など、学科を超えて幅広い知識・技術を身につけることができます。

② 学びの環境

▶日本トップクラスの教育・研究環境を保有

各種筋力トレーニングマシンを設置した【トレーニングルーム】、室内競技に対応した3つの【体育館】、25m×6コースの日本水泳連盟公認【室内温水プール】、夜間照明、各種陸上競技に対応した【全天候型陸上トラック】、強化指定クラブ所属学生のパフォーマンス向上を目的に、コンディショニングやリハビリを行う【アスリートサポートセンター】、さまざまな実験・実習を行う【実験・実習室】などを配置し、日本トップクラスの教育・研究施設を揃えています。また、平成25年3月には、硬式野球練習グラウンド、陸上競技グラウンド、ダンス実習室やトレーニングルームを備えた研究・実習棟の建設を予定しています。



トレーニングルーム



室内温水プール

③ 卒業後の進路

▶一人ひとりの夢を叶える 高い就職実績

本学科で取得する専門資格と、4年制大学で身につける豊かな教養、そしてスポーツ活動で培った“スポーツマインド”は、スポーツ業界のみならず、大手一般企業をはじめとしたビジネス社会からも求められ、卒業生は幅広いフィールドへの就職を実現しています。

- 病院・クリニックなどの医療機関
- 都道府県・市町村などの行政機関
- 中学校・高等学校などの教育機関
- スポーツ用品メーカー・ショップ
- 総合型スポーツクラブ
- 保健・福祉関連施設
- 各種スポーツ教室
- プロスポーツチーム など

健康スポーツ学科
平成23年3月卒業生
就職内定率実績
98.9%



国際感覚を学ぶ

海外での経験を通じて幅広い知識を身に付けることを目的とし、毎年さまざまな海外研修を実施しています。

今年度の春休みには、アメリカ、デンマーク、中国、韓国、フィリピンへの短期研修が企画され、多くの学生が参加しました。

数多くの研修の中から、今回は健康スポーツ学科のアメリカ研修、社会福祉学科のデンマーク研修をピックアップし、ご報告します。

健康スポーツ学科 アメリカ研修

健康スポーツ学科 講師 永野 康治

健康スポーツ学科では、3月2日から9日までアメリカのアリゾナへ、アスレティックトレーナー研修を実施しました。本研修は、アメリカスポーツと、そこに関わるアスレティックトレーナーについて体感・学習することが目的で、A.T. Still大学院大学での講習、アリゾナ州立大学NBA・MLB施設、コンディショニング施設の見学・講習という盛りだくさんの内容となりました。

大学、プロチーム、コンディショニング施設の見学では、その規模や充実度に驚きを覚えました。スタジアムやアリーナ、トレーニングやアスレティックリハビリテーションのための施設は、日本とは比べものにならない充実度です。そして、各施設で中心的に働くアスレティックトレーナーの姿を見ることができ、学生はトレーナーの可能性や魅力を改めて感じる事ができたでしょう。

また、解剖学の実習や、現地のトレーナーから身体機能の評価や、アスレティックリハビリテーションの講習も行っていただきました。日本で学習する中では触れることの少ない、実際の人体における筋や関節の観察や、より実践的な評価やトレーニング方法を学ぶことができ、これからのトレーナー活動にも活かすことのできる内容でした。

こうした研修を通じ、日本とアメリカにおけるトレーナーの違いや、トレーナーを取り巻く環境などを体感し、刺激を受ける事ができたのではと思います。

参加学生の声 健康スポーツ学科 平成23年度卒業生 加藤 洋介

日本とアメリカのアスレティックトレーナーには、それぞれに長所と短所がありますが、高校生や大学生のスポーツを行うための環境は、日本と比較するとアメリカは大きく進んでいると感じました。アメリカでは、カレッジスポーツが盛んで、街の中に大学の公式ショップがあるなど、興味・関心が高く、スポーツに対する歴史・文化の深さの違いを学ぶことができました。



社会福祉学科 デンマーク研修

社会福祉学科 准教授 戸出 朋子

Think Globally Act Locallyという言葉があります。さまざまな文脈でさまざまな意味に使われていますが、「世界規模で考え、行動は地元(地元)から」という点では共通しているようです。Think Globallyするためには、外の世界を知らなくてはなりません。社会福祉学科の多くの学生は、卒業後、福祉専門職として地域の中で働くこととなりますが、世界を知らなくても良い訳ではありません。むしろ、広い視野を持つことにより、自己やその進路について深く考え、豊かな未来が開けてきます。

社会福祉学科では、Think Globallyの機会を提供すべく、2月5日から12日まで、3年生7名、1年生3名の計10名が参加し、デンマークで社会福祉研修を行いました。デンマークは、国民の幸福度が世界一高い「福祉先進国」で、その制度も日本と大きく異なります。その背景には、デンマークの歴史・文化・人々の価値観が関係しているようです。

今回の研修は、デンマーク社会福祉概論という講義や高齢者・障がい者・児童福祉施設の見学・交流活動という質の高いプログラムで構成されました。現地の関係者との懇談の中で質問したり、高齢者と体操したり、英語で交流したりと、学生が積極的に学ぶ様子がうかがえました。

現在、参加した学生たちは、この研修から考えたことを報告書やプレゼンテーションという形でまとめています。この研修で行ったThink Globallyが、本学での学び(Act Locally)に実を結ぶことを大きく期待しています。

参加学生の声 社会福祉学科 4年 笹川 千尋

日本で福祉について学ぶ際、対象は児童・障害者・高齢者と分野を分けて捉えがちですが、デンマークという社会は、性別・年齢関係なく、すべての方を大切にしている印象を強く感じました。また、一個人を大切にしている理念から、本人のことに着目すること、個性・自己決定を尊重すること、自立を重要視することなどが当たり前の考えとして定着しており、人に対する考え方を改めて学ぶことができました。



平成23年度春休み 短期研修一覧

■2月5日～2月12日
学 科:社会福祉学科
国 名:デンマーク
研修先:障害者施設、ケアセンターなど

■2月15日～2月25日
学 科:社会福祉学科
国 名:韓国
研修先:忠南大学校

■3月2日～3月9日
学 科:健康スポーツ学科
国 名:アメリカ
研修先:アリゾナ州立大学など

■3月3日～3月10日
学 科:全学科共通
国 名:中国
研修先:上海财经大学

■3月10日～3月18日
学 科:臨床技術学科
国 名:アメリカ
研修先:ハワイ大学

■3月17日～3月25日
学 科:作業療法学科
国 名:アメリカ
研修先:ミッドウェスタン大学

■3月18日～3月30日
学 科:理学療法学科
国 名:アメリカ
研修先:カリフォルニア州立大学 フレスノ校など

■3月19日～3月29日
学 科:看護学科
国 名:イギリス
研修先:イーストアングリア大学

■3月8日～3月30日
学 科:全学科共通
国 名:フィリピン
研修先:アンヘルズ大学

| 学科長 |

Message



充実した学生生活を

理学療法学科 学科長 大西 秀明

これからの4年間は、皆さんの人生のなかで最も充実した時期になると思います。想像力を豊かにして何事に対しても積極的に行動を起こすように心がけてください。幅広い知識や教養、高い倫理観と責任感を培いながら、4年間の大学生活を楽しく有意義に過ごされることを期待しています。

Message



有意義な大学生活を

作業療法学科 学科長 大山 峰生

皆さんは、今、第一歩を踏み出したところです。自らの目標をしっかりと見据え、これからをお過ごしください。大学の4年間には、勉強ばかりでなく、課外活動や学園祭などの大きな楽しみもあり、皆さんはその中で友情を育み、人格を形成することになります。是非とも時間を有効に使い、充実した大学生活となるように努力してください。

Message



「夢」の実現のためには

言語聴覚学科 学科長 糟谷 政代

新入生の皆さんは大学生活や将来の夢を描いて胸が高鳴っていることでしょう。夢の実現には自己の基礎学力、社会性、幅広い教養力などをもち、論理的、継続的な行動力、すなわち「継続的な努力」を行うことで初めて叶うものです。「継続的な努力」を行い、「夢」の実現のため一步一步前進していきましょう。

Message



最高教育機関で自己の向上を

義肢装具自立支援学科 学科長 東江 由起夫

皆様のご入学を学科教員・在学生一同、心よりお待ちしております。大学は自ら学問を展開し、専門性を高める最高教育機関です。また長い人生の中でこれほど学問を深める機会はありません。本学科で義肢装具ならびに福祉用具などの専門性、さらには自分自身を高め、実りある大学生活を過ごしてください!

Message



新しい臨床技術者を目指して

臨床技術学科 学科長 追手 颯

私も臨床技術学科は、臨床検査技師と臨床工学技士のダブルライセンス取得に対応したカリキュラムを配置し、段階的に学んでいきます。4年間を通じて、めんどろみの良い教員が、基礎教養の習得から、専門基礎科目の講義・実習、大学独自の連携教育、現場での臨床実習、卒業研究、国家試験合格に向けた対策まで徹底的に指導していきます。

Message



食は心身の基盤作りの要

健康栄養学科 学科長 斎藤 トシ子

明治時代の日本の軍医である石塚左玄氏は、栄養学が学問として確立されていない時代に食物と心身の関係を理論的に提唱し、「体育智育才育は即ち食育なり」と唱えています。心身の健康を確保し、知識を習得し、才能発揮のためには、食が基本ということですね。新入生の皆さんも、絵に書いた餅にならぬよう、行動することを期待しています。

Message



「からだ」を鍛え、「あたま」を使う

健康スポーツ学科 学科長 丸山 敦夫

スポーツや運動がうまくなるには「からだ」を「あたま」で操ることから始まります。「からだ」を動かし、「あたま」を働かせてスポーツや健康づくりを勉強しましょう。スポーツで「からだ」を鍛え、スポーツを教え、スポーツ指導や健康づくりに役立てる。これができたらスポーツ・運動の専門家です。一步一步ずつプロの道に向かうことを期待します。

Message



考える力

看護学科 学科長 塚本 康子

看護の実践には判断力が必要です。正しい判断を下すためには考える力が必要です。看護学を学ぶ基礎として、考える力を養ってください。考える力をつけるためには、本を読解したり、人の話をじっくり聞いたり、日常の出来事に関心を持ち問題意識を持つことが必要です。私たちと大いにディスカッションし、考える力を養っていきましょう。

Message



誇りを持って、積極的に

社会福祉学科 学科長 伊東 正裕

社会福祉学科の学生は、国家試験や就職で全国トップレベルの成果をあげ、社会貢献活動などにも意欲的に取り組んできました。皆さんも、本学科の一員となったことに誇りを持ち、授業や実習はもちろん、いろいろなことに積極的に挑戦してください。質の高いソーシャルワーカーを目指して、楽しく、充実した日々を送りましょう。

Message



思いやりのある人生を

医療情報管理学科 学科長 福島 正巳

これからの日本を支え、活躍するためには、周りの専門職者とのチームワークが大切です。チームワークには、問題点を捉え、リーダーシップを身に付け、努力を惜しまないことです。日本には世界に誇れる美しい伝統がたくさんあります。その原点は、他人への思いやりではないでしょうか。思いやりを大切に、大学生活を通じて幅広い知識と知恵を身に付けてください。



学生 |

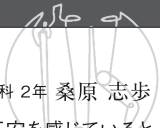
Message



学ぶ姿勢を大切に

理学療法学科 2年 桑原 志歩

新生生の皆さんは、勉強に不安を感じていると思いますが、大学の必修科目では専門的な用語がたくさん出てきます。私自身、予習などの準備を何にもせずに授業を受けると、理解に時間がかかることがありました。予習・復習は当たり前に行い、積極的に授業を受けることが大切です。意欲的に学び、QOLサポーターを目指しましょう！



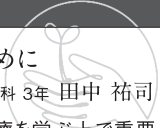
Message



充実した大学生活のために

作業療法学科 3年 田中 祐司

1年生で学ぶ基礎科目は医療を学ぶ上で重要になっています。高校とは違い、多くの専門知識を習得しなければならないので、日々の学習の積み重ねが大事だと思います。大学生活では、まずは新しい環境に慣れ、友達関係やサークル活動など、余暇も大切にすることで、よりメリハリのある大学生活に繋がると 생각합니다。



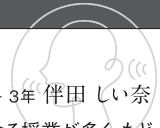
Message



1年次はベース作り

言語聴覚学科 3年 伴田 しい奈

1年次での授業は基礎知識となる授業が多く、もどかしく思うことがあるかもしれませんが、基礎知識をしっかり身に付けることで、2年次での授業の理解が深まります。学年が上がるにつれて、授業も専門的な科目や演習などが増え、さらに面白く感じるようになると思います。また、本学は他学科との交流が盛んなので、より充実した大学生活になると思います。



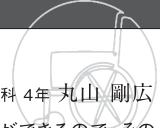
Message



日々の中にメリハリを

義肢装具自立支援学科 4年 丸山 剛広

大学生になると、時間に余裕ができるので、その中でしっかりスケジュールを立てて生活していくこと、自分から学んでいく姿勢が大切になります。勉強する時はきちんと取り組み、遊ぶ時はとことん遊びましょう。そして、同じ夢に向かう仲間存在を大切に、充実した大学生活を送ってください。



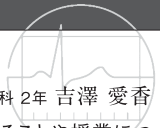
Message



夢実現

臨床技術学科 2年 吉澤 愛香

入学当初は大学生活に慣れることや授業についていくことで精一杯となり、実際に医療に携わるといふ実感が湧きにくいかもしれません。しかし、1年生で学習する基礎知識は、これからの4年間はもちろん、卒業してからも必要な知識となります。仲間と楽しみながら勉強に励み、夢の実現のために頑張ってください。



Message



後悔しないために

健康栄養学科 4年 小林 清美

大学では専門的な勉強が多くなるので、1年生で学ぶ基礎科目が大切になってきます。自分の分野をより深く学ぶためにも、しっかりと基礎を固めておくことが重要です。また、サークルやボランティア活動などに参加することも自分を成長させてくれると思います。後悔しないために、勉強と遊びのメリハリをつけ、楽しい大学生活を送ってください。



Message



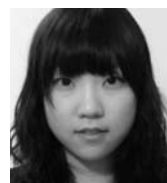
文武両道

健康スポーツ学科 3年 渡邊 翔子

私は中学校・高校体育教師の免許取得を目指し、現在勉学に励んでいます。強化部の女子バスケットボール部に所属しており、全国大会にも出場することができました。忙しい中でも楽しく充実した毎日を実感しています。本学はやりたいことを存分に挑戦できる環境です。皆さんも一緒に夢を追いましょ。



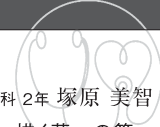
Message



夢への第一歩

看護学科 2年 塚原 美智

本校への入学は、自分の思い描く夢への第一歩ですね。授業が始まると、どんどん専門的な内容を学んでいきます。純粋に夢を追いかける今の気持ちを忘れずに、一步一步努力して欲しいと思います。また、大学は楽しいこと、魅力的なことで溢れています。充実した大学生活が、より一層、夢への近道になるのではないのでしょうか。



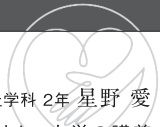
Message



素敵な大学生活を

社会福祉学科 2年 星野 愛

いよいよ大学生活が始まりますね。大学の講義は、高校までの授業とは違い、答えがない問題もあります。その歯がゆさを楽しみながら、演習や学外実習に向けて、専門知識を身に付けてください。また、大学では数えきれないほど多くの出会いがあります。その中で、大切な友達、先輩、先生に出会い、素敵な大学生活を過ごしてください。



Message



時間の使い方

医療情報管理学科 3年 寺田 明広

大学生活では、さまざまな学生との交流、勉強、部活やサークルなど、楽しみがたくさんあります。しかし、皆さんに考えてもらいたいことは“時間の使い方”です。長いようで短い大学4年間は、自分のやりたいことが思いっきりできる最後の時間だと思います。ぜひ悔いのない充実した大学生活を過ごしてください。



What's
学友会

大学と地域の活性化を目指す！ 学友会紹介



こんにちは! 学友会です。学友会という組織と、その活動内容についてご紹介します。

学友会って?メンバーは?

中学や高校の生徒会組織に似ています。会長、副会長をリーダーに、広報担当、地域交流担当、行事担当、部活サークル担当、書記担当、美化担当、会計担当で構成され、全学科の各学年で2~3人が集まり、現在総勢85人が所属しています。

学友会の活動って?

文化活動やスポーツ活動並びに地域活動を通じて、学生同士の親睦、地域との交流を図り、学生の皆さんがより良い学生生活を送れるように日々活動しています。具体的な活動は、伍桃祭(学園祭)、スポーツ大会などの大学行事の企画運営、部活動の支援、学内の美化活動、フリーペーパー(RiRi)の発行などです!

新入生の皆さんへ!

組織というと堅いイメージを持ってしまいかもかもしれませんが、学年や学科を越えてとも仲良く、楽しく、そしてそれぞれが自分の仕事に責任を持って頑張っています! 学友会はこれからもさまざまな活動を通じて、大学と地域の活性化を目指していきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひします。



YEAR SCHEDULE

主な行事と学友会の動き

平成24年

- 4 ●リーダー研修会
●桃迎え(新入生歓迎イベント)
●新入生オリエンテーション
- 5 ●学友会総会
●美化キャンペーン
- 7 ●夏季スポーツ大会
- 9 ●美化キャンペーン
- 10 ●伍桃祭
●美化キャンペーン
●学友会総会(中間決算)
- 11 ●秋季スポーツ大会
- 12 ●美化キャンペーン

平成25年

- 1 ●美化キャンペーン
●学友会総会

MEMBER MESSAGE



会長
健康スポーツ学科3年
濱田 祐輔

皆さん、こんにちは☆いつも学友会の活動にご協力いただき、ありがとうございます。学友会のメンバーは学部学科を超えて仲良しです! 楽な仕事ばかりではないですが、楽しい思い出がたくさん作れます。また、自分の能力を最大限に活かす機会が必ずあるので、人間的にも成長できます! 学科を超えて友達もたくさん作れますよ。やる気のあるそのあなた!! 私たちはあなたを待っています!

学友会では新潟医療福祉大学のさまざまなイベントを企画、運営しています。自分たちでイベントを成功させる喜びと、仕事を通して出会った学科を越えた仲間は4年間の大学生活でかけがえのないものになると思います。大学生活をより楽しく、充実に過ごしたい人こそ、ぜひ学友会に入ってください。一緒に楽しく頑張りましょう。



副会長
臨床技術学科2年
阿部 拓也



広報担当
臨床技術学科2年
渡辺 彩

広報担当は、主に伍桃祭で活躍します! ホームページの作成やメールマガジンの送信、メディアなどでの伍桃祭の宣伝・紹介などです! 学友会では、学生が楽しく生活できるような企画を計画しています! ぜひ学友会に入って楽しい学生生活を送りましょう!

部活

男女バレーボール部/男女バスケットボール部/サッカー部/テニス部/水泳部/軟式野球部/陸上競技部/ハンドボール部/ソフトボール部/フットサル部/卓球部/バドミントン部/弓道部/準硬式野球部/スキー部/剣道部/ラクロス部/ボランティア「レクア・コム部」/和太鼓部「颯」/吹奏楽部/茶道部/VICON部/軽音楽部/園芸部/写真部/手話部/学生サークル[Kids]/学生ボランティアセンター

サークル

ダンスサークル/ソフトボールサークル/バスケットボールサークル/スノーボードサークル/男女混合サッカーサークル/英語club/バレーサークル etc....

RiRiメンバー大募集!!

RiRiにあなたの子カラを吹き込んでみませんか? 大学生活で何かやってみたい、社会に活かせる何かをしたい、いろいろな人と交流したい! など理由は何でも構いません。あなたの活躍できる場所がきっとあります。お気軽にご連絡を!

お問い合わせはこちらまで

[E-mail] gakuyuu@gmail.com



RiRiとは? 学生による学生のためのフリーペーパー!! 企画・取材・撮影を全て本学学生にて行っています! ぜひチェックしてみてください!!



学友会メンバー大募集!!

お問い合わせはこちらまで → gakuyuu@nuhw.ac.jp

フレッシュな1年生を大募集しています!
ちょっとでも興味がある人は
第3厚生棟1階にある学友会室(I104)を
ノックしてね!



文部科学省「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」終了

NEWS 01

平成21年度文部科学省の公募に対して、本学が代表校となり、埼玉立大学、札幌医科大学、首都大学東京および日本社会事業大学とともに申請し、採択された三年間の取組「QOL向上を目指す専門職間連携教育用モジュール中心型カリキュラムの共同開発と実践」が無事終了を迎えました。

この取り組みは、複雑化・深刻化する超高齢化社会における諸問題に対し、利用者のQOL向上を目指す支援策を提案できる学生を育成するため、専門職間連携教育(interprofessional education: IPE)用教材「モジュール」を共同開発し、データベース化して普及を目指すことが目的です。また、それらの教材を活用できる教員「ファシリテーター」養成講座の開催や、付随するファシリテーターガイドなどの開発も行ってきました。

「モジュール」とは、現実の対象事例をベースに課題解決のための設定を包含する仮想的な事例(イラストや写真を利用して作られたスライド教材)と、その指導法をセットにしたものです。本事業で開発されたこれらのデータベースは、非営利の教育目的に限り無償で公開される方向で検討されています。利用者のフィードバックにより、よりよいモジュールへと改編できることも期待されます。

平成24年2月16日(木)には、秋葉原UDXカンファレンスにおい

て、本事業を総括する公開シンポジウム「日本の多職種連携教育の確立と普及に向けて-大学協働による教育システムの開発-」が開催されました。IPE先進国である英国よりHugh Barr氏(英国連携教育推進センター長)およびRichard Pitt氏(ノッティンガム大学)、米国よりScott Reeves氏(カリフォルニア大学サンフランシスコ校)、カナダよりSimon Kitto氏(トロント大学)をお招きしました。また、文部科学省より高等教育局大学振興課課長補佐の神宮孝治氏にお越しいただき、貴重な講演を行って頂きました。当日は、全国の保健医療福祉関係大学関係者など総計100名の方々にご参加いただき、活発な意見交換が行われました。

本学を初めとした連携校は、本事業終了後も引き続きIPE普及のための活動を行って参ります。



「2013学内企業就職説明会」実施

NEWS 02

2月16日(木)、本学にて「2013学内企業就職説明会」が実施されました。

この就職説明会は、一般企業へ就職を希望している本学3年生の就職支援の一環として、本学就職センターが毎年実施しているもので、今回で5回目の実施となります。保健・医療・福祉・スポーツ分野を総合的に学んでいる学生を積極的に採用したいと、35社42名の採用担当者にお越し頂き、本学学生も約180名が参加しました。

当日は最初に全体会を行い、各企業からPRを行って頂いた後、別会場で行われた個別ガイダンスでは、各企業の採用担当が事業内容や採用スケジュールなどを説明し、参加した学生は時折メモを取りながら熱心に聞いておりました。

採用担当者からは「新潟医療福祉大学の学生さんはコミュニケーションの面で優れた方が多いです」「多くの学生とお会いすることができて良かった」「他の合同説明会で何度かお会いしている学生さんが、元気に挨拶してくれたのが印象的でした」などの感想を頂きました。

また、参加した学生からは「他の合同説明会ではお会いできない企業も参加していてとても良かった」「大きな合同企業説明会とは違って対話するような形で話が聞けたところがとても良かった」「初めて説明を聞いた職種があったが、とても興味が持てるもので、視野が広がった」「就職に対する意識が高まった」など、これからの就職活動に向けて大変有意義な説明会になったようです。

本学では今後もこうした就職支援を積極的に行い、学生の夢の実現をサポートしていきます。



「平成23年度 新潟医療福祉大学 第8回卒業式・大学院修了式」実施

NEWS 03

3月14日(水)、朱鷺メッセにて「平成23年度 新潟医療福祉大学 第8回卒業式・大学院修了式」が実施されました。

今回の卒業式では606名の学部生と大学院生20名がこの日を迎えることができました。山本 正治学長から学位記が手渡され、登壇者は緊張の面持ちで受け取っておりました。学長式辞の後、平成23年度の学業成績優秀者など49名の表彰が行われ、来賓より祝辞を頂きました。

その後、卒業生代表の義肢装具自立支援学科 関川 且行さんより「卒業生代表誓いの言葉」が述べられ、第8回卒業生一同より大学へ記念品として「ハナミズキ」と「ハンドドライヤー」が社会福祉学科 桐山

涉さんより贈呈されました。

高齢化が進行する日本社会において、更にニーズの高まる保健・医療・福祉・スポーツ分野の専門職として、大きな希望と責任を胸に、本学を巣立っていった卒業生の今後の大いなる活躍を心より祈っています。



受験生の皆さんへ

イベント案内

オープンキャンパス 第1回/7月14日(土) 第3回/8月 5日(日)
第2回/8月 4日(土) 第4回/9月 1日(土)

大学説明や入試説明はもちろん、全10学科による40種類以上の体験プログラムを用意し、皆さんの「知りたい」全てに応えます!



キャンパスツアー 第1回/4月21日(土) 第4回/10月27日(土)
第2回/6月16日(土) 第5回/12月 8日(土)
第3回/10月7日(日)

小論文対策や英語プレ入試など開催ごとに異なるプログラムを用意し、皆さんが「今」知りたい情報を提供します!



伍桃祭 (大学祭) 1日目/10月7日(日)※ 2日目/10月8日(月・祝)
※キャンパスツアーと同時開催

ゲストを招いてのライブなど、さまざまなイベントを実施します!是非キャンパスライフの楽しさを体感してください!



メールマガジン案内

新潟医療福祉大学では月1度、本学のさまざまな情報をメールマガジン「QOLサポーター新潟(NUHW)」として皆さんにお届けしています。イベント情報・入試情報などの最新情報や、教員・学生からのメッセージ、先輩の合格体験談など進路決定や入試対策の参考になる特集をはじめ、さまざまな内容を予定しています。ぜひ本学ホームページからご登録ください。

ホームページ案内

URL <http://www.nuhw.ac.jp/>

携帯 <http://www.nuhw.jp/m/>
(携帯電話からはコチラ)



新潟医療福祉大学の情報が満載です。新着情報やイベント情報などを随時更新していきます。ぜひご覧ください。

資料請求・イベント申し込み、メールマガジン登録などもこちらからどうぞ。

大学院 医療福祉学研究科

地域社会の保健・医療・福祉・スポーツを支える教育者・研究者を養成します。

わが国での、大学・大学院における保健・医療・福祉・スポーツ分野の教育・研究組織は極めて少ないのが現状です。本学大学院は、先進欧米諸国の水準を目標に、教育・研究体制の整備を進め、この分野の教育・研究を推進し、その成果を社会に還元していきます。

学びやすい制度

長期履修生制度

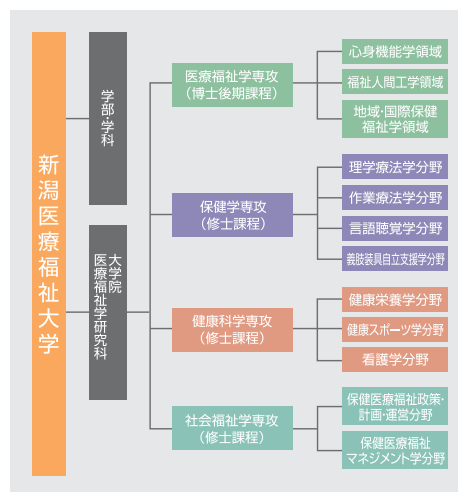
本学大学院では、個々の学生の生活条件・勤務環境等を考慮し、標準修業年限を超えて長期にわたって履修できる制度を設けており、社会人になっても安心して働きながら学ぶシステムになっています。また、長期履修の場合、授業料の納付に関するの特例も設けています。

昼夜開講制

本学大学院の時間割においては、働きながら学びたいという方の希望に応えるため、昼夜開講制とし、平日は昼間と夜間に開講(夜間の授業の開始は18:10から)しております。また、土曜日(昼間のみ)または集中授業なども行う工夫をしています。

入学金減免制度・奨学金等

本学卒業生が入学する場合、卒業後継続して入学する場合は入学金の全額を、既卒者の場合には半額を減免いたします。また特待生制度や本学独自の奨学金制度(給付型・貸与型)、日本学生支援機構奨学金など、経済面のサポートも充実しています。



〒950-3198 新潟市北区島見町1398番地
TEL025-257-4455(代) FAX025-257-4456
URL <http://www.nuhw.ac.jp/>
携帯サイト <http://www.nuhw.jp/m/>
【入試事務室】TEL025-257-4459
E-mail nyuusi@nuhw.ac.jp

誌名「QOLサポーター新潟」の由来

世界一の長寿国となった我が国では、「いのちの長さ」を伸ばすことと同様に、「生活の質、Quality of Life, QOL」を豊かにすることが、益々重要になっております。新潟医療福祉大学では障害者、高齢者などのQOLを高くすることを支援する(サポート)人材を育成します。このような人材を「QOLサポーター」と名づけました。そして皆様へ本学の内容、活動をお知らせする広報誌を「QOLサポーター新潟」としました。

